

初年度は特に高須さんが国体に出場したということ。それから、山岳部がよく執行部の手伝いをやってくれているということを伝えておきたいと思います。

水野 執行に関しては、吹奏楽部や金延先生もおっしゃいましたようにギター研究部などがありますね。このギター研究部は執行の方もかなり手伝ってもらっています。

四. 自治会活動全般について

高木 最後に芦高生と自治会活動についてというところで、今日の座談会をしめくくってもらいたいと思います。

安藤 記念祭の話とかしますと、皆目を見張るといふか驚きますね。すぐわかる特徴といえば、制服がないということで羨ましがられる1つの要因になっています。こういう話をしたら気持ちがいいものです。

山本健 今、私服のことを言われたのではと思いついたのですが、本館を建て替えることによって上履きになりましたね。服装が自由なのに、どうして上履きを強制するのか、結果を聞いた時はあれっと思いました。やはり、別に上履きにしないで掃除をきれいにすればいいし、皆が同じ上履きをはいてると、芦高も違って来たのかなあという印象を受けました。

安藤 あれは児玉さんの代に本館が建て、ある日の学校集会である先生が「上履きにします」と一言いわれました。でも僕らは全然そういう話を聞いていなかったの、非常に激怒して署名運動をしたり、代議委員会にかけたりしました。当然代議委員会では皆上履きをはきたくないから、止めようということになったのですが、結局強引に学校に押し込まれました。

高木 上履き問題、それと自治と自由。例えば、芦高の自治会活動で意識したり、あるいは卒業してから芦高は良かったなと思うところ、上履き以外で何かないですか。

山下 私が一番面白いというか、変わってるなと

思ったのは、クラスごとに遠足の目的地を決めて行ったことです。予算の中でクラスごとに好きな所で自由にできる独特のシステムが他の学校にはないものだと思います。

高木 学校行事と自治会活動そして自治の精神がジャストミートした行事ですね。他にありませんか。

灘井 やはり感じるのは、やる気とパワーがあれば、この学校では何でも出来る可能性があるということです。他の学校にはない雰囲気や環境があるような気がします。

佐藤 学期末に他の学校でも球技大会をやっている所が多いのですが、大体3日ぐらいで、県芦みたいに5日から6日もする所はありません。また、種目が体育の授業でやっている競技を選んでいるので、生徒にしても迫力があっていいと思います。

高木 今、学校の行事と自治会行事がうまくあっているという話でした。他にありませんか。

山本健 自主性で言えば、僕が目を見張るなと思うことは授業前後の挨拶です。最近では新しい先生が日番に礼をさせたりしますが、基本的には生徒が自分で立って礼をして座るといのが芦高の伝統になってますね。僕はそれはとてもいいと思います。挨拶というのは自分から進んで気持ち良くするものだと思うし、残して置いてほしい習慣です。

高木 芦高らしいという所が今出ていますが、他にありませんか。

大仁 最後に「自由・自治・創造」ということを在学中に嫌というほど聞いて、考えて、なんとなく解ってと云う所があると思うけど、そのへんの話をして下さい。芦高の卒業生は自由は強制されるよりはずっと厳しく、しんどいことだとか言うでしょう。

永田 僕の知っている人で、尼崎で高校の教師をやっている人や、同じようなバンド関係の人や、僕らの音楽を聞きに来てくれる現在の高校生などから、学校への不満ばかり聞かされるのです。自分の経験談を話してあげると、多くの人は「県芦はいい学校ね」とか羨ましがられます。しかし、知り合いの先生に県芦の校訓の自由・自治・創造の話したら、一番最初に「厳しい学校だね」と言われた事が今でも心に残っています。実際、自由というのはと

でも厳しいと思うし、自分で自分を高めていかなく
てはいけないのでとても厳しい学校だと思います。
結局、県芦の生徒は外部に不満を漏らすこともあま
りないし、そういうことをなんとか自分でやってい
るのですごいと思います。

高木 芦高の教育綱領でもある「自由・自治・創
造」は自治会活動の目標でもあるのですが。

山本光 先程、金延先生が話されている時にあつ
と思ったのですが、どうして研究系のクラブがしん
どいかという自由だからだと思います。運動部と
いうのは先輩からの強制もあるし、演奏系でも例え
ば brassバンドに入ったら3年間でトランペットを
うまく吹かなくてはいけないし、しかしそれぞれの
研究部が何をやるかというのは自由に任されている
かわりに、思い付かなければそのままだし、何も強
制するものがないわけです。最近、自由といっても
与えられるばかりで自分で何かをやるというのがす
ごく下手なんです。自由・自治・創造の精神が衰退
してる文化部特に展示系では、自由に対する責任を
取っていくのが難しいと思います。

高木 そういう事を芦高生が3年間考えて、実際
に経験して巣立って行くわけですが、卒業した皆さん
はどうですか。

灘井 やはり、世間とか物に対する見方が大分変
わったような気がします。

高木 さっき永田君がどこかの先生に自由とい
うのは厳しいと言われたそうですが、そういうふう
に思ったり、感じたりすることがありますか。

安藤 芦高生はそういうことを全然思っていない
と思います。そういう場しか見えないわけですから。
中学校で髪の毛が何cmと決められてても、この学校
はこういうものだとしか思わないのと同じですね。
外に出てみると自由というのは厳しいなと思いま
す。

高木 芦高生と自治会活動について山本健さん
に最後までしてもらいたいと思います。

山本 自治会執行部でやってると、自分で動いた
方が早いけれども誰かにやってもらおうという苦し
みを味わったりとか、自分が思ってることを人にや
らせるということの難しさをものすごく感じました

ね。どのようにしたら人を動かせるのかを一番よく
学んだと思います。先生から与えられた指示によ
って企画しそして動くというパターンではなくて、自
治会自身で企画して生徒を動かすという所だから、
人を動かすことを自分達で考えなくてはならないと
いう意味でとてもトレーニングを積んだと思いま
す。だから大学に行っても社会人になっても、何か
企画する時に効率的に動けることができるし、人を
まとめたり使ったりする時にでもうまくいったりし
ます。どうしてそういうことが出来るかといったら、
僕は自然に身につけているようなんだけど、よくよく
考えてみれば1年間か2年間なり自治会活動をし
てきたことで、自然に身に付いているところがあり
ますね。そういう意味では自治会執行部員を経験し
たことは良かったなと思いますね。

芦高生一般についても、自由という面で、これぐ
らいはいいけどこれ以上はだめだろうと、どことな
しに自分なりの価値判断みたいなものを持っていま
すから、そういう意味では他の高校生とちょっとず
つ違うのかもしれないけれども、筋はずさずに判断
をする人が多く、それで芦高のカラーが出ていると
思います。

高木 どうもありがとうございました。まだまだ
ご意見を頂きたい所なんですけど、一番先輩の山本健
司元自治会長に最後までうまくまとめて頂きましたの
で、これでこの座談会を終りたいと思います。